

2016年（平成28年）

3月25日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

3/10~3/16のNYMEX・WTIは、4か国による原油市況対策の会合は4月に延期となったものの、何らかの対策への期待から高めに推移し、36~38ドルで推移した。

3月17日は、4か国での会合への期待から続伸し、40ドル台を回復した。4月限の終値は、前日比1.74ドル高の40.20ドルとなった。

週末18日は、前日の流れを受け継ぎいったん41.20ドルまで上昇したが、その後利食い売りやドル高の進行により反落した。4月限は、前日比0.76ドル安の39.44ドルで終了した。

週明け21日は、WTIの集積地であるクッシングの在庫減少などを受け反発した。この日取引の最終日となる4月限の終値は、前日比0.47ドル高の39.91ドルで終了した。5月限は、0.38ドル高の41.52ドルで終了した。

22日は、ブリュッセルでのテロ事件を受け、ユーロ安/ドル高が進行、値下がりした。しかしその後、米株価の回復とともに買い戻しが入り、小幅な下落にとどまった。この日から中心限月になった5月限の終値は、前日比0.07ドル安の41.45ドルで終了した。

23日は、EIA(米エネルギー情報局)の石油統計で、原油在庫の増加が予想を大きく上回ったことから値下がりした。5月限の終値は、前日比1.66ドル安の39.79ドルで、1週間振りに40ドルを割り込んだ。

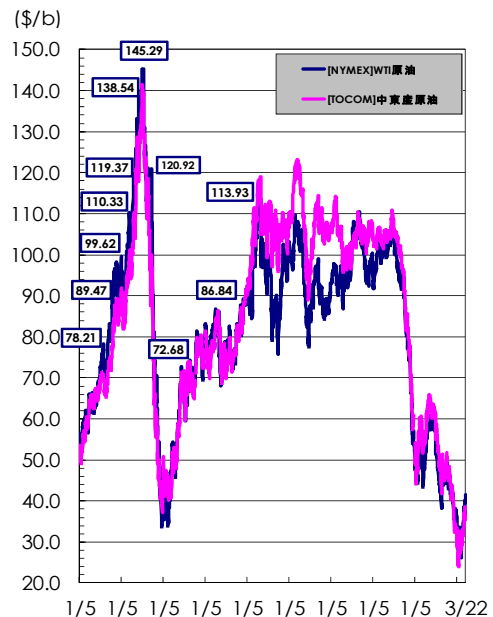
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は、前週も続伸し34~36ドルで推移した。17日は36.40ドル、18日は37.30ドル、連休明け22日は37.90ドル、23日は37.60ドル。

為替は、前週も小幅な動きにとどまり113円台で推移した。17日は112.85円、18日は111.17円と円高が進んだ。連休明け22日は111.93円、23日は112.21円とやや円安。

主要元売会社の3月第4週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、全社横ばいだった。原油も為替も小幅な値動きだった。

そのような中で、3月22日時点の小売価格は、ガソリンが0.8円値上がりの112.9円、軽油は0.2円値上がりの97.3円、灯油は横ばいの61.0円となった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油は5週振りの値上がり、灯油は5週振りに値下がり止まった。この週の原油コスト、元売りの卸価格は値上がりで、40都道府県で値上がりした。

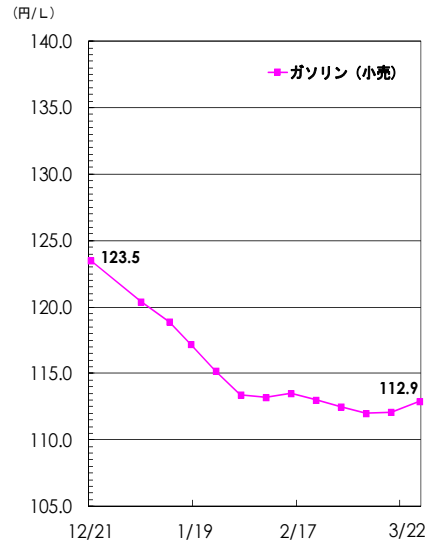
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/13 ~ 3/19	3,882 ▲ 44	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	89.1 ▲ 1.0	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	3/19	14,452 ▼ -396	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	3/22	39.01 ▲ 2.51	▼ -15.0
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	3/21	39.91 ▲ 2.73	▼ -7.5
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	2月下旬	29.92 ▲ 0.95	▼ -19.62
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	21,578 ▼ -138	▼ -15,200
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	114.66 ▲ 4.50	▲ 3.38
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/22	112.93 ▲ 1.96	▲ 8.02



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週		前週比	前年比	
需給	生産	3/13 ~ 3/19	1,040	▼ -36	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,033	▲ 169	▲ -	
	輸出	"	60	▼ -62	▼ -	
	在庫	3/19	1,713	▼ -53	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/15 ~ 3/18	35.2	▲ 1.3	▼ -22.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/15 ~ 3/18	37.0	▼ -0.3	▼ -18.7
		(TOCOM/中部)	3/18	37.0	▲ 0.6	▼ -19.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/22	112.9	▲ 0.8	▼ -27.5	

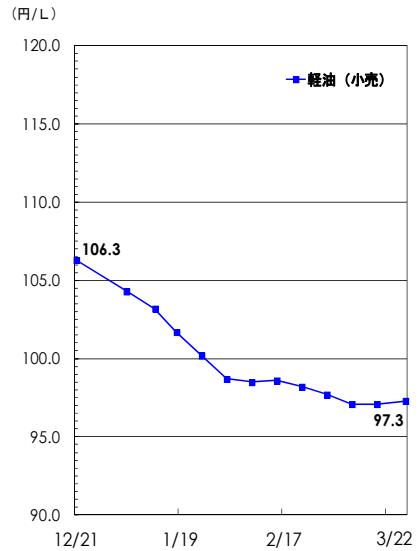
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

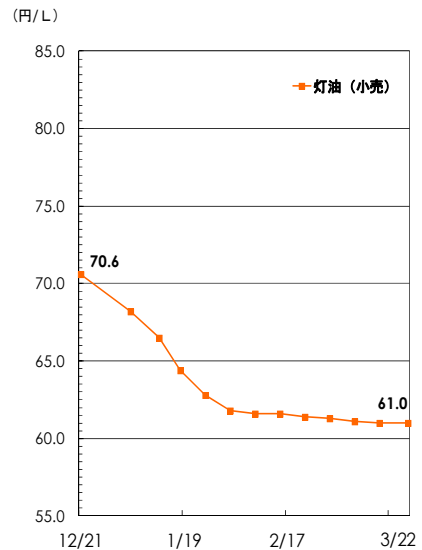
軽油		今週		前週比	前年比	
需給	生産	3/13 ~ 3/19	791	▼ -26	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.	
	出荷	"	639	▼ -40	▼ -	
	輸出	"	168	▼ -16	▼ -	
	在庫	3/19	1,434	▼ -16	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/15 ~ 3/18	33.5	▲ 0.6	▼ -20.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/15 ~ 3/18	36.4	▲ 0.1	▼ -16.1
		(TOCOM/中部)	3/18	-	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/22	97.3	▲ 0.2	▼ -22.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週		前週比	前年比	
需給	生産	3/13 ~ 3/19	344	▼ -116	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.	
	出荷	"	399	▼ -44	▲ -	
	輸出	"	0	▶ 0	▼ -	
	在庫	3/19	1,168	▼ -55	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/15 ~ 3/18	34.0	▼ -0.4	▼ -21.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/15 ~ 3/18	34.3	▲ 0.9	▼ -18.4
		(TOCOM/中部)	3/18	35.0	▲ 1.0	▼ -17.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/22	61.0	▶ 0.0	▼ -23.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

23日のNYMEX市場のWTI原油は、EIAの週間石油統計で、原油在庫が大幅に増加したことを受けて、1週間振りに40ドルを割り込んだ。

EIAが発表した週間石油統計は、原油在庫が事前予想(310万バレル増)を3倍上回る940万バレル増で、5週連続の増加となった。在庫水準も5億3,200万バレルで過去最高。4月17日の産油国による原油市況対策の会合も、イラクとナイジェリアは参加の方向だがリビアは不参加、イランも対応が不透明で、市場には警戒感が残っている。

5月限の終値は、前日比1.66ドル安の1バレル39.79ドル、6月限の終値は、前日比1.57ドル安の1バレル40.87ドルだった。

EIAによると、3月21日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比4.6セント値上がりの1ガロン2.007ドル(59.4円/ℓ)となった。ディーゼルは2.0セント値上がりの2.119ドル(62.7円/ℓ)。ガソリン、ディーゼル共に5週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、3月13日～19日に休止したトッパー能力は、25.2万バレル/日と先週から1.0万バレル/日の減少。(全処理能力は391.7万バレル/日)。

原油処理量は388.2万kl、前週に比べ4.4万kl増。前年に対しては、24.7万klの増加。トッパー稼働率は89.1と前週に対しては1.0ポイントの増加、前年に対しては6.3ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.3%減、ジェット/70.7%増、灯油/25.1%減、軽油/3.2%減、A重油/14.0%減、C重油/3.5%増。今週のC重油の輸入は3.8万kl(前週比0.2万kl減)。軽油の輸出は16.8万kl(前週比1.6万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、ジェット、A重油で増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、ジェット、灯油が増加し、その他の油種で減少した。原油価格の上昇を受けて、元売各社が仕切価格値上げを打ち出す中、流通、販売業者を中心とした引き取り増による仮需が発生したと思われ、ガソリンで103.3万kl(対前週19.6%増)と3週振りの100万kl超え、また3週振りの前年超えとなった。

ジェット13.2万kl(対前週13.8%増)、灯油39.9万kl(対前週9.9%減)、軽油63.9万kl(対前週5.9%減)、A重油28.5万kl(対前週19.2%増)、C重油29.3万kl(対前週12.0%減)。

(単位:千KL)

	今週 (3/13 ~ 3/19)	前週 (3/6 ~ 3/12)	前週比
ガソリン	1,033	864	▲ 169 (20%)
ジェット燃料	132	116	▲ 16 (14%)
灯油	399	443	▼ -44 (-10%)
軽油	639	679	▼ -40 (-6%)
A重油	285	239	▲ 46 (19%)
C重油	293	333	▼ -40 (-12%)
合計	2,781	2,674	▲ 107 (4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月19日時点の在庫はすべての油種で取り崩しとなり、前年に対してはC重油のみが積み増し、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは171.3万kl、前週差5.3万kl減。前年に対しては3.8万kl少ない。

灯油は116.8万kl、前週差5.5万kl減。前年に対しては17.3万kl少ない。

軽油は143.4万kl、前週差1.6万kl減。前年に対しては12.6万kl少ない。

A重油は71.2万kl、前週差2.7万kl減。前年に対しては4.6万kl少ない。

C重油は207.9万kl、前週差0.6万kl減。前年に対しては1.8万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (3/19)	前週 (3/12)	前週比
ガソリン	1,713	1,766	▼ -53 (-3%)
ジェット燃料	882	890	▼ -8 (-1%)
灯油	1,168	1,223	▼ -55 (-4%)
軽油	1,434	1,450	▼ -16 (-1%)
A重油	712	739	▼ -27 (-4%)
C重油	2,079	2,085	▼ -6 (-0%)
合計	7,988	8,153	▼ -165 (-2.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月15日から3月18日までの原油コストは、原油価格はほぼ横ばい、為替レートは小幅に円高で、コスト自体は小幅な値下がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン88~89円台、軽油33円台、灯油33~34円台だった。海上スポット価格は、ガソリン88~89円台、軽油34~36円台、灯油33~35円台である。また、先物価格はガソリン90~91円台、軽油36円台、灯油33~35円台だった。原油コストは小幅な値動きだったが、4週連続の卸売価格値上がりの影響で、製品市況も小幅に値上がりした。

EMGマーケティングは24日、26日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種据え置き旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、原油コストの小幅な値動きに呼应して、小幅な値動きだった。週間のガソリン販売量は、3週振りに100万klを上回った。

3月第4週(3月24日~3月30日)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(3月15日~3月18日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.3円、軽油は0.6円の値上がり、灯油は0.4円の値下がり、東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.9円、軽油は1.8円、灯油は1.5円の値上がりだった。また先物価格は、ガソリンが0.3円の値下がり、軽油が0.1円、灯油は0.9円の値上がりだった。原油コストはほぼ横ばい、スポット製品価格も全般的に小幅な値動きだった。

3月第4週の大手元売の卸売価格は、全社横ばいだった。なお、元売会社は、2010年から卸売価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (3/15 ~ 3/18)	前週 (3/8 ~ 3/14)	前週比
スポット価格	レギュラー	35.2	33.9	▲ 1.3
	灯油	34.0	34.4	▼ -0.4
	軽油	33.5	32.9	▲ 0.6
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (3/15 ~ 3/18)	前週 (3/8 ~ 3/14)	前週比
先物価格	レギュラー	37.0	37.3	▼ -0.3
	灯油	34.3	33.4	▲ 0.9
	軽油	36.4	36.3	▲ 0.1

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/15~3/18実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.3	▼ -0.3	▲ 0.5
灯油	▼ -0.4	▲ 0.9	▲ 0.3
軽油	▲ 0.6	▲ 0.1	▲ 0.4
A重油	▲ 0.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

3月22日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.8円値上がりの112.9円、軽油は0.2円値上がりの97.3円、灯油は横ばいの61.0円だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油は5週振りの値上がり、灯油は5週振りに値下がり止まった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは40都道府県、横ばいは2県、値下がり5県だった。沖縄県を除く都道府県別のガソリンの全国最安値は、高知県(前週比0.4円安)の105.0円で、埼玉県(同2.6円高)が108.6円で続いている。最高値は鹿児島県(同0.7円高)の122.4円だった。都道府県

別で最も値上がりしたのは埼玉県(同2.6円高)で108.6円、最も値下がりしたのは鳥取県(同0.5円安)で110.0円だった。

原油コストはほぼ横ばい、卸売価格も据え置きだった。製品スポット市況も小幅な値動きだったが、次週の小売価格は、前週までの卸売価格引き上げの影響が残り、小幅な値上がり予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			直近高値	
		今週 (3/22)	前週 (3/14)	前週比		
小売価格	レギュラー	112.9	112.1	▲ 0.8	08/8/4	185.1
	灯油	61.0	61.0	▶ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	97.3	97.1	▲ 0.2	08/8/4	167.4

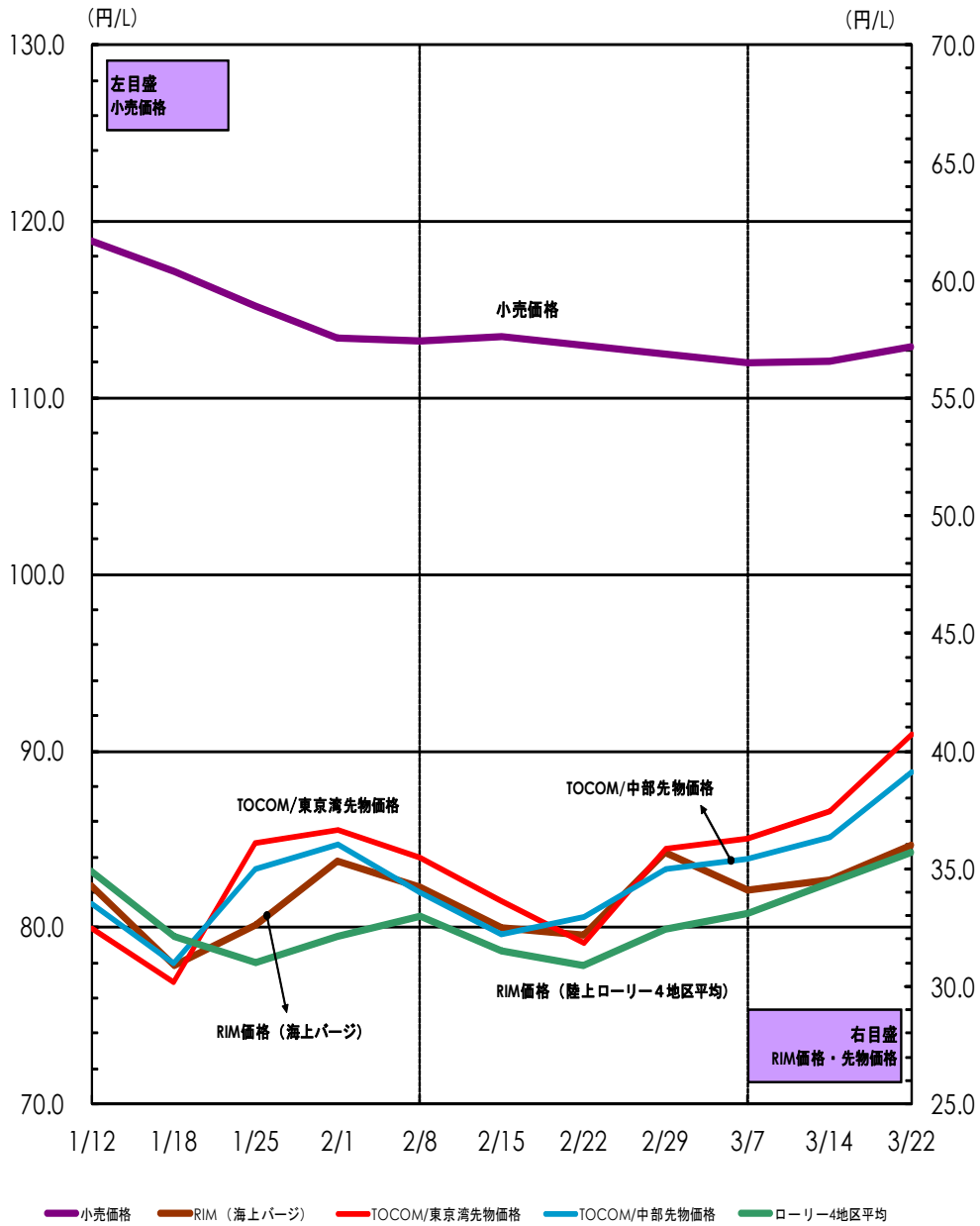
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/1/12 ~ 2016/3/22)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第1号)の公表は、4/1(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年4月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。